

B—4 着用により衣服に生じた光沢の解析に 関する研究

日本女大家政 ○大野 静枝
大川 陽子

1. 着用中に生じた光沢、いわゆる汚光は、衣服の外観的損耗の大事な要素の一つと考えられる。そこで、汚光の発生の原因を知るために、衣服の汚光部分における布の表面、繊維の表面状態を種々な実験方法によって解析することを試みた。

2. 試料として、中学、高校生の制服7着、ならびに男子背広1着を回収し、これらの汚光部位と無汚光部分につき、厚さ、通気性ならびに光学顕微鏡による布表面のレプリカ観察、繊維側面の形態観察、さらに、変角光度計により光沢の差異、ソックスレーによる汚れの抽出を行った。

3. 汚光部分では、羊毛繊維のスケールの消失がみられ、布の表面構造は無汚光部分に比較して、起伏が減少しているのがわかり、変角光度計では、汚光部分は無汚光部分の約2倍の光沢があり、織り糸のうき糸上端が平滑化している。汚れの抽出については、汚光部分は、無汚光部分に比して約2倍の汚れを含有することがわかった。